

河内部 丈部ヘツカベ 刑部ツギタ 大續 酒部サカベ 三川ミカ 財部 眞壁 輕部 池邊イケベ 衣川驛家マダカウチヤ

丈部廢す、但し芳賀郡にも丈部あれど、是も廢せり、萬葉集卷二十に、天平勝寶七歲乙未二月、相替遣、筑紫諸國防人等歌とある中に、下野國防人部鹽屋郡上丁丈部足人が歌あり、また續日本後紀卷九に、陸奥國人丈部繼成と云人もみえて、則下野君の後なりとあれば、是も當國の丈部より出しものなるべし、刑部存す、宇都宮の東南にて、きぬ川の岸なり、大續廢す、酒部は坂上に作りて、上三川の南にあり、三川存す、今の上三川なり、上中下とわかれたる内、下三川は今三村と稱す、財部眞壁輕部はともに廢す、池邊は宇都宮の古名にて、同所の池上街その名殘なりと、上野宮住いへり、宇都宮は二荒神社のことなれば、地名はもとより池邊郷なるべし、池も鏡が池とて今あり、衣川驛は兵部式にもみえたれども、今廢したれば、何所とも定かならず、猶次の驛馬の條にいふべし。

芳賀郡 古家 廣妹ヒロイモ 遠妹 物部モノベ 芳賀 若續ワカイク 承舍ツクキヤ 石田 氏家ウヂノヘ 丈部 財部 川口 眞壁 新田

古家、廣妹、遠妹、ともに廢す、但し妹は妹の誤なるべし、今中川の邊に大瀬村あり、廣瀬遠瀬などの轉じたるにや、よく考ふべし、物部は眞岡の南なる物井村なるべし、芳賀は天正年中より眞岡と改む、されど字に芳賀口、また芳賀林、芳賀沼等なほ存せり、また芳賀氏の古城跡もあり、委しくは下條にゑるす、若續は若續の誤にて、眞岡の東なる若色村ならむと、或人云り、若色村は今東郷と唱ふれど、天正中までは若色郷にて、芳賀伊賀守が一族、若色掃部助と云人居住す、承舍は今續谷に作りて、眞岡の東北の方にあり、氏家は中頃より鹽谷郡に屬して、今奥道中の驛なり、丈部、財部廢す、但し今續谷村の北の方に給部村あり、財部の轉じたるにや、よく考ふべし、川口は中川の邊なる川合ならむと、或人云り、眞壁新田廢す、但し新田は兵部式にも新田驛とありて、今氏家驛の